



# 前期学校評価アンケートについて

京都市立北総合支援学校

## 令和3年度 前期学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

前期学校評価の結果をお知らせいたします。教職員と保護者全体のアンケート結果の比較と、児童生徒のアンケート結果のグラフを、掲載いたします。

◇ 実施 令和3年9月21日（火）から30日（木）まで

◇ 対象者 北総合支援学校保護者、児童生徒、教職員

◇ 方法 保護者、教職員は各項目について「重要度」と「実現度」を5段階で回答

児童生徒は「実現度」のみ5段階で回答

◇ 回答率

	保護者 [228]	児童生徒 [235]	教職員 [156]
回答数	189	64	147
回答率	82.9%	27.4%	94.2%

◇ 分析結果

### 【表示方法】

- 回答データ一覧表の重要度は「重要である」と「やや重要である」、実現度は「よく出来ている」と「大体出来ている」の回答を合わせた割合（%）を学部別に表示する。
- 実現度の高いもの（90%超）項目と、低い（60%台以下）項目にを着色し表示する。
- 各部保護者（以下、保護者）と教職員全体（以下、教職員）のデータが比較できるよう、一覧表に並べて表示する。
- 児童生徒の実現度をデータで表示する。

### 【重要度について】

- 全項目において、保護者全体（以下、保護者）の「重要である」と「やや重要である」を合わせた肯定的な回答（以下、肯定的な回答）は90%を超えていました。
- 全項目において、教職員全体（以下、教職員）の肯定的な回答は、95%を超えていました。

### 【実現度について】

#### 【保護者アンケート 全体を通して】

昨年度と比較すると、10%程度の値を下げている質問項目がいくつありました。これらの項目では、今年度「わからない」と回答された方が10%程度あったため、数値が下がっていることが要因の1つとなっています。質問項目の内容としては、実際に学校に来ないと評価がしづらいことや対外的な活動に関することに対するものでした。

今年度は、休校はしなかったとはいえ、新型コロナウイルス感染拡大防止のための「まん延防止措置」や「緊急事態宣言」が発出している状態が長く続きました。そのため、「あおぞらフェスタ2021」

は無観客で実施し、前期の懇談はリモートや電話で行うなど、実際に学校に来ていただいて、ゆっくりと参観していただく機会がありませんでした。それらのことが「わからない」という回答を選んだ方が多くいらっしゃったことに繋がったと考えられます。「わからない」という回答は、学校のことをもっと知りたい、参観など学校に行く機会を多く持ちたいという気持ちの裏返しであると捉え、今までに加えて、学校からの発信の方法を模索していく必要があります。

### 【保護者・教職員アンケート 各項目について】

#### ＜1. 健やかな身体をつくる＞

質問項目	重要度				実現度			
	小	中	高	教職員	小	中	高	教職員
①学校では健康維持や体力づくりに関する取組が十分に行われている	97.5	100.0	100.0	100.0	92.2	89.3	93.9	86.6
②児童生徒は、身体の健康に留意して学校生活を送っている	98.7	100.0	97.4	100.0	93.5	85.7	89.2	88.4
③校内や教室は、清掃され美しく衛生的である	98.1	100.0	94.9	100.0	86.7	85.7	82.4	83.9
④教材や備品の整理整頓、安全・事故防止に配慮している	96.3	100.0	96.2	100.0	88.3	89.3	81.1	91.1

保護者の実現度の数値を見ると、日々の活動や指導に対して高く評価をいただいていることがわかります。③では、昨年度より 10%程度数値を下げていますが、実際に学校に来ていただかないと分かりづらい項目であったのではないかと考えます。

設備環境としては「成逸かがやき広場」の築山やバスケットブランコが、また、増収容工事完了により、新しく生まれ変わった屋上多目的広場など、体を動かして活動する場が増えました。サテライト施設「楽只館」では、地域の公園のメンテナンス活動にも取り組んでいます。身体づくりや環境・衛生に対する学習に広がりが出ることを期待しています。来校していただくことはもちろん、学年だよりや学校だより、学校ホームページでの発信など、学校の取組の様子をお伝えしていきます。

教職員の肯定的な回答は、おおむね 80%を超える数値を示しています。④では、昨年度と比較して 15%程度上昇しました。しかし、保護者の数値を比較すると開きがあります。前述の来校していただけなかつたことが原因として考えられますが、少ない来校機会、また、短い滞在時間であるからこそ、学校環境を一瞥した感想となったのかもしれません。毎月設定されている「学校安全日」や「環境整備の日」に、一斉に清掃活動等に取り組めているのか自身で顧みて、今後も学校全体で取り組んでいきます。

#### ＜2. 元気にあいさつをする＞

質問項目	重要度				実現度			
	小	中	高	教職員	小	中	高	教職員
①児童生徒は、自分なりの方法であいさつをしている	96.3	100.0	100.0	99.1	84.8	93.1	90.9	89.3
②教職員は、児童生徒や保護者、来校者にあいさつをしている	96.3	96.6	100.0	100.0	92.5	93.1	97.0	96.4
③児童生徒はきまりや約束を守って学校生活を送っている	94.4	100.0	100.0	100.0	79.8	75.9	90.9	94.6

④教職員は児童生徒の規律ある生活習慣・ルールを守る態度の育成を図っている	97.4	100.0	100.0	99.1	98.7	93.1	97.0	93.8
⑤教職員は、児童生徒に適切な言葉遣いや態度で支援をしている	98.1	100.0	100.0	99.1	92.5	86.2	87.9	89.3

この質問項目群では、保護者、教職員の肯定的な回答は85%に迫る数値を示しています。

一人一人の児童生徒が自分なりの方法でいさつをすること、教職員からもいさつをすることで、自然といさつを交わす姿勢が身につくと考えられます。また、いさつをすることは、規律ある生活習慣やルールを守ることにも繋がっていきます。教職員として丁寧で適切な言葉遣いで接することや規範となるような行動ができているか、今一度振り返り、児童生徒が身近な大人を手本として日々の学校生活を送ることができるようにしていきます。

質問項目③では、数値が少し低く出ています。前述の通り、「わからない」という回答が小学部では20%を超える、中学部では10%を超えていたことが要因であると思われます。保護者との連携やニーズに沿った情報発信が必要だと考えます。

### ＜3. 考え、工夫し、生き生きと表現する＞

質問項目	重要度				実現度			
	小	中	高	教職員	小	中	高	教職員
①児童生徒は、達成感や満足感を持つて学習に取り組んでいる	98.1	100.0	100.0	100.0	84.5	82.8	93.9	88.4
②児童生徒が理解しやすいように授業や教材に工夫が見られる	100.0	100.0	100.0	100.0	94.3	82.8	96.9	87.5
③学校は、児童生徒が生き生きと主体的に取り組む行事や授業をしている	98.1	100.0	100.0	100.0	90.5	79.3	89.3	85.7
④教職員は、児童生徒の学習の成果や努力について適切に評価している	100.0	100.0	98.7	99.1	93.4	93.1	93.2	92.0

教職員は児童生徒の「できる姿」を捉え、学習活動を計画したり、設定したり、学習環境を整えたりすることを大切にしています。後述の児童生徒アンケートの「学校は、楽しいですか」の質問項目では約98%という肯定的な回答を得ているように、楽しい学校生活を送っていることは大変喜ばしいことです。

児童生徒が「楽しい」「できた」「もっとしたい」と感じ、生き生きと活動できる授業になるよう、これからも授業改善や教材教具の工夫に取り組んでいきます。また、児童生徒の「できた」という気持ちを積みかね、小学部から高等部までの学習のつながりを持てるよう、取り組んでいきます。

### ＜4. 願いや夢を持って心豊かに生きる＞

質問項目	重要度				実現度			
	小	中	高	教職員	小	中	高	教職員
①本人や保護者の願いが個別の包括支援プランに反映されている	100.0	100.0	100.0	98.2	96.2	96.6	97.0	87.5
②保護者と学校は、児童生徒の願いや目指す姿を共有している	100.0	100.0	100.0	100.0	94.3	79.3	97.0	86.6
③保護者、担任、授業担当者で児童生徒の実態や学習内容が共有できている	98.1	100.0	98.7	100.0	90.5	82.8	84.0	85.7

④卒業後や将来の生活（進路）を見据えて、児童生徒の目標や課題に応じた適切な指導および支援ができる	98.1	96.6	100.0	99.1	73.3	55.2	88.0	77.7
⑤個別の包括支援プランに基づいた、継続した支援ができる	100.0	100.0	100.0	99.1	92.4	93.1	93.9	78.6

質問項目①の肯定的な回答がおおむね高い数値を示しています。今後も、児童生徒・保護者の願いを学習に反映していくことができるよう、授業改善を行なっていきます。

質問項目④は、昨年度の「児童生徒の目標や課題に応じた進路学習や関係機関との連携ができており、適切な進路指導ができる」という質問項目から、より具体的な問い合わせに変更しました。小学部から中学部、高等部へのつながりや、将来を見据えた取組が児童生徒の豊かな心や願いの実現に向かえるようにしていきます。また、家庭教育学級などPTAや学校からの情報発信も行なっていきます。

質問項目⑤は、昨年度の「園や小・中学校との引き継ぎが確実に行われ、継続した支援ができる」という質問項目から変更しました。幼稚園や保育園等から小学校に、また、小学校から中学校に、など、学校種が変わる時点だけの支援にかかわらず、どの学年であっても継続した支援が行われているかという点に着目しました。わかりやすく設定したことで、肯定的な回答を多く得ています。

## ＜5．役割を担い、役に立とうとする＞

質問項目	重要度				実現度			
	小	中	高	教職員	小	中	高	教職員
①学校は、児童生徒が主体的に取り組み、自己有用感を高められる活動や場を設定している	100.0	100.0	97.1	100.0	86.7	82.8	84.8	92.9
②児童生徒は、任された役割や係活動等にやりがいを持って、学校生活や家庭生活を送っている	98.1	100.0	100.0	100.0	88.8	86.2	87.5	87.5
③保護者は、学校と協力して家庭でも教育活動を進めている	96.3	93.1	100.0	100.0	77.6	65.5	84.4	76.8

質問項目③では、保護者、教職員とも、肯定的な回答は高く現れませんでした。学校では、生活年齢に応じた学習の場で取り組んでいます。学校で頑張っていることを家庭でも試してみることができるようアレンジするなど、家庭で学習の積み重ねができるよう、保護者と連携を取りながら学習活動を組み立てていくことが大切だと考えます。

## ＜6．他者とともに生き、学び合う＞

質問項目	重要度				実現度			
	小	中	高	教職員	小	中	高	教職員
①児童生徒は、友だちに親しみを持って、学校生活を送っている	96.9	96.6	100.0	100.0	88.0	82.8	97.0	92.0
②交流及び共同学習では、児童生徒は楽しんで意欲的に活動している	94.5	86.2	100.0	97.3	74.8	51.7	81.3	55.4

③地域社会の中で、自分らしい生き方を実現するための視点が教育活動に反映されている	94.9	96.6	100.0	99.1	65.2	41.4	77.4	66.7
--	------	------	-------	------	------	------	------	------

質問項目①は、昨年度の「児童生徒は、友だちを大切にしようとする気持ちを持って、学校生活を送っている」という質問項目から表現を変更したものです。「大切にしようとする」という限定された事柄に対しての評価基準ではなく、全般的な面で考えられるような表現にしました。それぞれの「親しみを持つ」という様子が思い描きやすかったようです。保護者、教職員とも、多くの肯定的な回答を得ました。

一方、質問項目②では、交流及び共同学習をリモートで行なうことはありました。実際の場所に行って活動する機会はほとんどありませんでした。また、地域資源の活用については、校内外で実施することがしづらい状況が続きました。コロナ禍であるとはいえ、ICT機器を活用するなど、新しい方法での学習を模索していく必要を感じています。制限が緩和されたときに、どのような学習をしていくのか組み立てる必要があります。

学習の場としては、児童生徒にとって、学校のある地域と居住している地域との2つの場があります。その2つの地域の中で、自分らしく生活をしていくことは、大切なことです。一人一人の姿を思い描いて学習を設定する必要があります。また、地域での学習の様子などを保護者に発信することに加え、北総合支援学校のある地域にも学校の取組について知っていただく必要があります。

## [児童生徒アンケート 各項目について]

児童生徒アンケートは、実現度について実施しました。児童生徒の実態に応じて、本人による記入や担任による聞き取りで行なっています。在籍児童生徒 239 名のうち 64 名の回答がありました（小学部では在籍児童 93 名のうち 13 名、中学部では在籍生徒数 41 名のうち 8 名、高等部では在籍生徒数 105 名のうち 43 名の回答。いずれも、訪問籍・分教室を含む）。

自由記述欄では、「あきぞらフェスタの練習がすきです」「大事にする」「もう少しだけ友達と仲良くしたいです」「漢字をがんばります」など、現在頑張っていることや、頑張りたいことの記述が見られました。

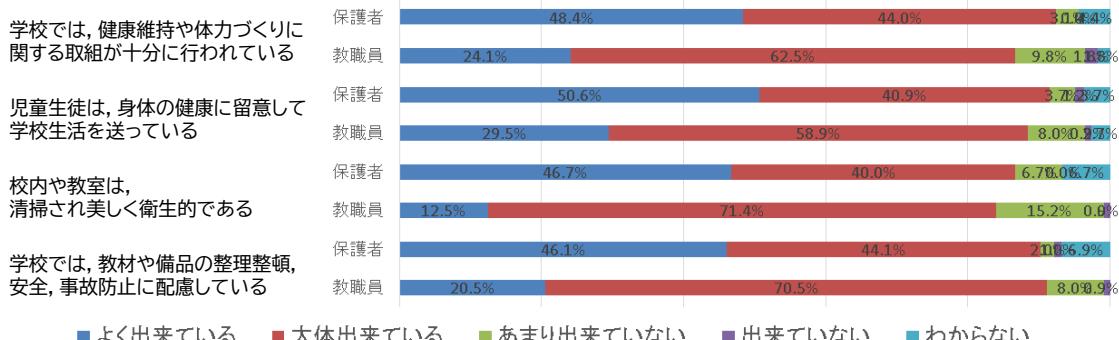
質問項目		児童生徒
1. 健やかな 身体を つくる	① 手洗い、うがいを 毎日 して いますか	95.3
	② 早ね、早起きを して いますか	90.5
2. 元気に あいさつを する	① 自分から すすんで あいさつを して いますか	85.7
	② きまりや やくそくを まもって いますか	96.8
3. 考え、工夫し、生き生きと 表現する	① 先生は わかりやすく 教えて くれますか	95.2
	② 学校生活は 楽しいですか	98.4
4. 願いや 夢を 持って 心豊かに 生きる	① 自分には よい ところが ありますか	88.9
	② わからない ときは 自分から すすんで 聞く ことができますか	85.7
5. 役割を 担い、 役に 立とうと する	① 責任を 持って まかされた ことを して いますか	89.1
6. 他者と ともに 生き、 学び合う	① 友だちと なかよく 過ごせて いますか	96.8
	② 家族や 友だち、 先生を 大切に して いますか	96.8

どの項目も、肯定的な回答が多い結果となっています。あいさつを交わすことは、気持ちの良い一日を過ごすことができるだけではなく、社会人としてのマナーややりとりを学ぶことができます。また、その日の心身の様子や日々の変化をうかがい知ったりすることにもつながります。お互いに認め合うことで「自分のよいところ」＝「自己肯定感」を持つことにもつながります。

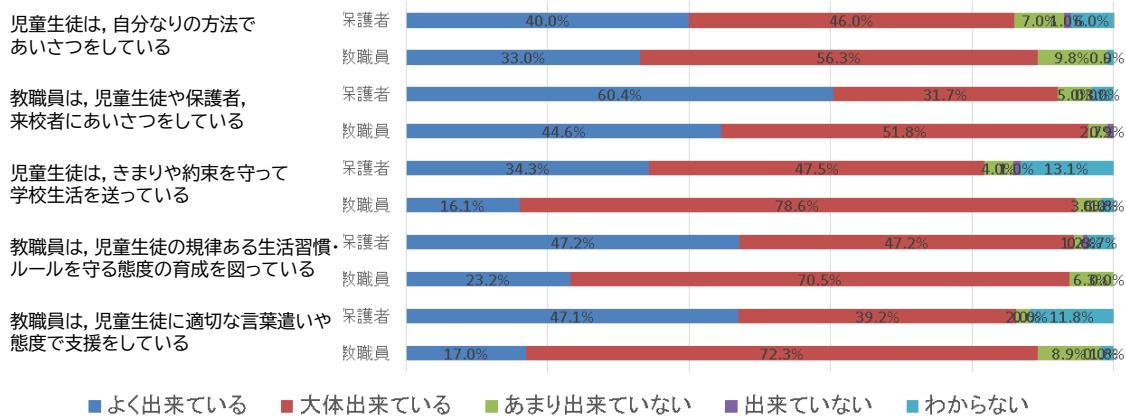
今後も、家庭と協力をしながら、児童生徒の健康管理や学校生活でのよりよい学びを育むことができるよう努めます。

## 令和3年度 前期学校評価アンケート 保護者・教職員 実現度比較

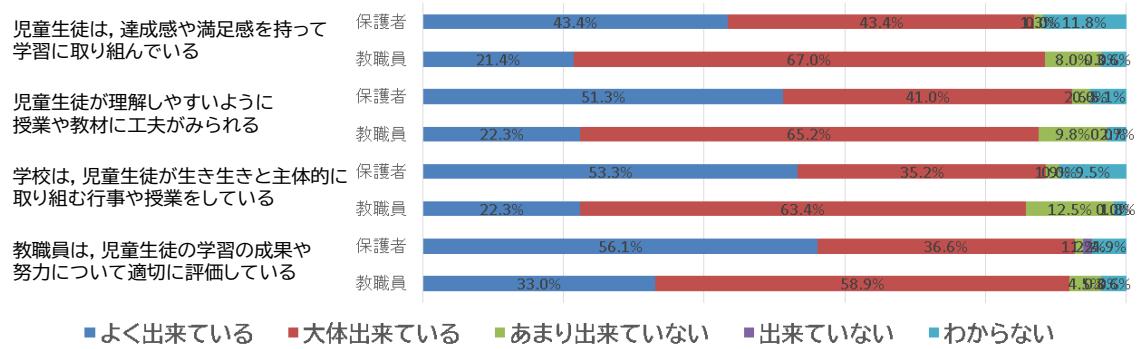
### 1. 健やかな身体をつくる



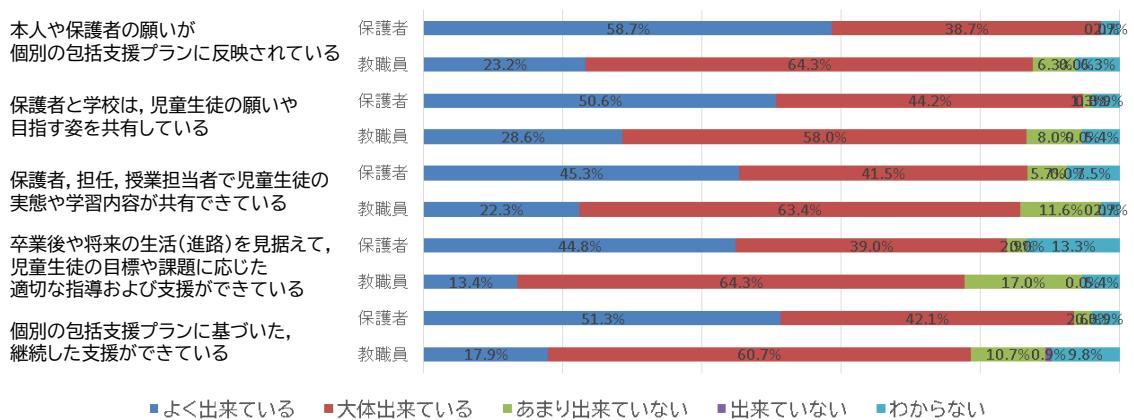
### 2. 元気にあいさつする



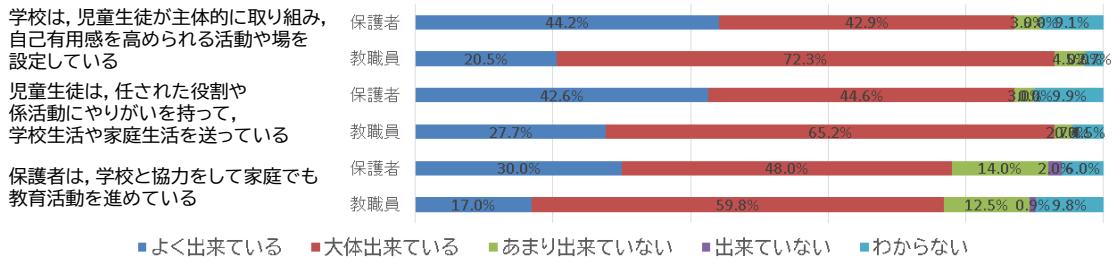
### 3. 考え、工夫し、生き生きと表現する



### 4. 願いや夢を持って心豊かに生きる

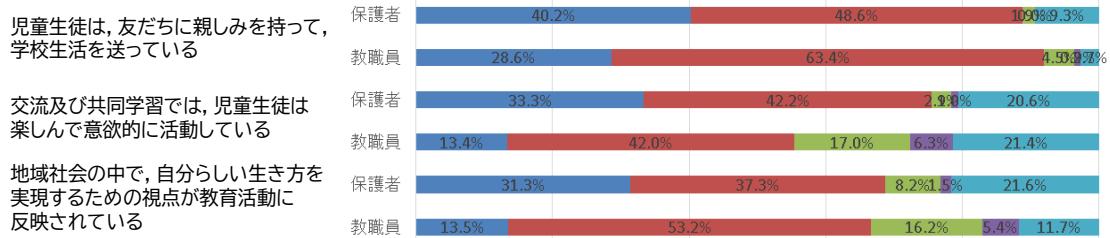


## 5. 役割を担い, 役に立とうとする



■よく出来ている ■大体出来ている ■あまり出来ていない ■出来ていない ■わからない

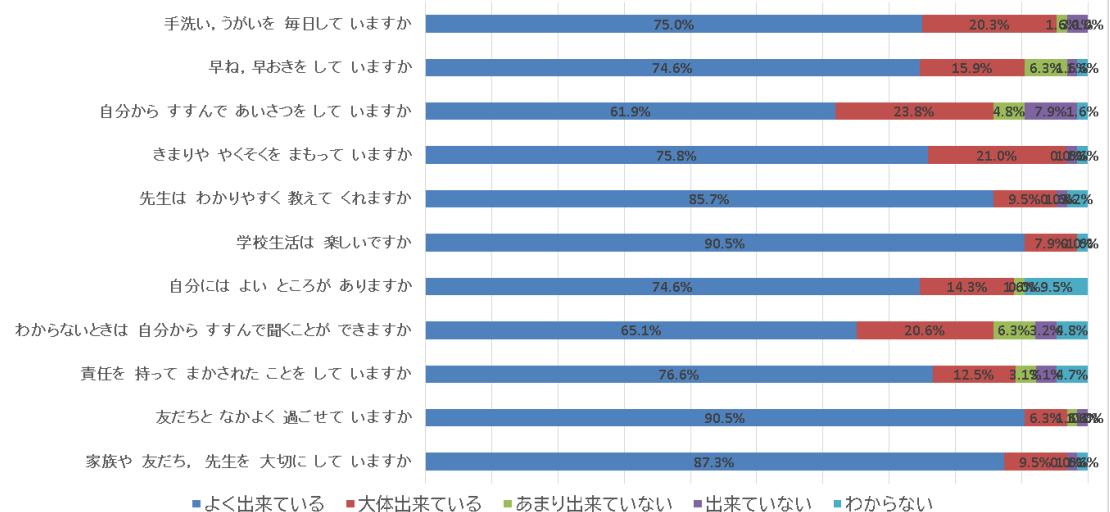
## 6. 他者とともに生き, 学び合う



■よく出来ている ■大体出来ている ■あまり出来ていない ■出来ていない ■わからない

## 令和3年度 前期学校評価アンケート 児童生徒 実現度

### R3 学校評価アンケート 前期 児童・生徒 実現度



■よく出来ている ■大体出来ている ■あまり出来ていない ■出来っていない ■わからない

## [参観アンケート（あきぞらフェスタ 2021）より]

11月はじめに「あきぞらフェスタ 2021」を開催しました。今年度は密を防ぐために、昨年度より日程を1日追加し、4日間の開催としました。また、ステージ発表の鑑賞は、当該学年の保護者のみとさせていただきました。4日間で、のべ300名を超える方々に来ていただきました。当日のアンケートを紹介いたします。

自由記述欄では「頑張っている姿が見られてよかったです」「個人が出来ることを生かして構成がなされていてよかったです」「初めて学校にきました。行き届いた設備で安心しています」「練習本番ともに大きなストレスがかかる中、よく頑張っていたと思います。日常の学習も期待しています」「一人一工夫を凝らしてテーマに添ってされ、統一感のあるあきフェスだったと思います」などのご意見をいただきました。

評価項目		A	B	C	D	未
1	児童生徒は生き生きと活動していますか	76	6	0	0	0
2	児童生徒一人一人に応じた、学習内容が工夫されていますか	78	4	0	0	0
3	授業をわかりやすくするために、教材・教具の工夫や準備がされていますか	80	2	0	0	0
4	指導者は、一人一人に応じた適切な対応ができますか	79	3	0	0	0
5	学校内は、児童生徒が活動しやすいように、整理整頓し、安全・事故防止に配慮されていますか	77	5	0	0	0
6	児童生徒や教職員は、進んであかるくあいさつができますか	80	2	0	0	0
A(はい), B(どちらかといえば、はい) C(どちらかといえば、いいえ), D(いいえ), 未(未回答)						

左記の「あきぞらフェスタ」当日のアンケート結果では、「はい」「どちらかといえば、はい」といった肯定的な回答が100%となり、学校での様子を実際に参観することをどれだけ待望されていたかということを感じました。

当日のステージ発表の幕間では換気をするなど普段よりも時間を空けて開催しました。そのときに印象的だったのは、ステージ発表が終わった児童生徒が、鑑賞されていた保護者に手を振ったり駆け寄っていった

りするなど、自身の「頑張った」「できた」を伝える場面が多く見られたことです。学校の様子を保護者が実際に見たいという気持ちだけではなく、児童生徒もまた、自分の頑張りを保護者に見てもらいたかったのだということを改めて感じました。「できた」という喜びを分かち合うことは、通知票では伝わりづらい「評価」の瞬間でもあります。また、こうして得られた評価は、自己肯定感へとつながり、次の「頑張っていこう」につながります。こういった瞬間を大切にしながら、学習活動を広げていくことができるようになります。